

6. 防毒被服は裸で着るな

ゴム製の防氣被服を暑いからといって直接裸體で着ることは却つて直射日光の影響を受けるのみならず瓦斯の危害を受け易いから必ず下着類を着た上で防毒衣を着なければならぬ、完防の際暑さを少しでも緩和するには出來たら防毒衣の上から時々水をかけると良い。

一一、通信兵の爲に

1. 地棒に水を

雨の少い季節では地棒の接地抵抗が非常に大きく特に岩石地、海岸砂地等では地棒の地位に十分水を注ぎ水の無い時には西瓜やパイヤ等の水分の多い果實、野菜類を碎いて地中に埋め之に地棒を押し込むか、或は草木のある所を選ぶか場合によつては古い被覆線二、三百米（出来る丈長いのがよい）

通信兵の爲に

四七

0348

を對地線として地上に敷けば地棒の代りになる。

2. 無線通信は何に注意するか

- (一) 無線機の濕氣を防ぐ事に特に注意しなければならぬ、爲之には
- (イ) 水晶片は濕氣の爲發振不良又は全くしない事がある、使はぬ時には必ずパラフィン紙で包まねばならぬ。
- (ロ) 雨期に於ては現制スーパ一受信機は短波を使用する場合局部發振が止り易いから真空管及乾電池に注意しなければならぬ。
- (ハ) 軍通信隊用及固定無線送信機は電壓も高いから雨期に於ては特に濕氣、水滴等に注意せねばならぬ、高壓を負荷する前、扇風器で乾燥するか又は心線のみを點火し其の熱で乾燥する等の著意が必要である。
- (ニ) 各部の接續線に使つたエンバイヤチニープは暑さの爲塗料が溶けて隣りの線と粘著し兩線間の絶縁が悪くなり易い。
- (三) 乾電池は出来る丈乾燥して涼しい所に格納する必要がある。

(四) 空冷式發動機は暑さの爲冷却不十分となり易いから運轉時シリンダ蓋の温度に注意し焼付を起さないやうにする必要がある。

(五) 空電の爲中波の使用が困難な事が多い。
(六) 汗の爲電鍵短絡し又受話器は頭、顔、耳部の流汗で短絡し受信困難となる。

3. 視號通信をなす時は

光線が強くて眼を刺戟するから通信手には特に遮光眼鏡を使はず事が必要である。

又直射日光下の回光通信には赤色が最も有利である。

4. 通信兵の交代

通信は疲れるから通信兵の交代は出来たら約二時間以上にならないやうにするよよい。

通信兵の爲に

四九

19

0350